

平成28年12月16日(金)

レーザー切断用鋼板を加工

鋼帯(コイル)の加工を手掛けるコイルセンター、

村山鋼材(千葉県浦安市)は

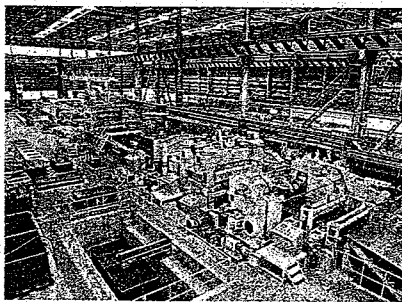
免震材向けのレーザー切断用鋼板の加工に強みを持つ。納入先企業が鋼板をレーザーで切断する際の反りやゆがみを抑える。同業との協業など業界内の先進的な取り組みにも積極的だ。

鋼板を平らに加工する事業を60年以上にわたって手掛けている。製鉄会社からコイルを仕入れて加工し、トラックや産業・建設機械のメーカー向けに供給する。加工量は年間20万トに及ぶ。

村山鋼材 (浦安市)

《profile》

1952年10月に設立。コイルの加工を手掛けており、2016年9月期の売上高は107億円。



製鉄会社からコイルを仕入れて加工、年間加工量は20万トに及ぶ(千葉県浦安市)

類で、顧客の用途に応じて使い分ける。

業界内では鋼板の厚さが6ミリまでの加工が一般的だが、JCL-1は25ミリまで対応できる。鋼板の幅も一般的な1600ミリまでにとどまらず、2500ミリまで対応可能だ。月間加工量はJCL-1が90

トン、JCL-2が70トンに上る。近年は免震材などに使用

するレーザー切断用鋼板のニーズが増えている。この鋼板は少しでも曲がると「使い物にならない」(村山和雄社長)。納入先企業が鋼板に穴を開けたり、切断したりする際、反りやゆがみが生じないように事前加工するのが同社の役目だ。「平坦さを保つのは難しく、ここに技術がある」と村山社長は胸を張る。現在も日々、改良作業を続けている。2008年秋のリーマン

太陽光発電でCSRを推進

村山鋼材は環境保全活動にも力を入れている。2013年10月に茨城県牛久市内に太陽光発電所を設置し、発電事業を始めた。1万3500平方メートルの敷地に太陽光パネル4000枚を設けた。年間発電量は100万キロワット時で、二酸化炭素(CO₂)排出削減量は390トンの上。村山社長は社会人大学院に通った経験から、企業の社会的責任(CSR)に関心が強い。「社会的責任を果たすことが企業の持続的な発展に欠かせない」と村山社長は肝に銘じている。

コイルを真っ平ら極める

同社が売りにしている加工呼ぶ装置が担う。JCLは00ト、JCL-2が70ト、JCL-1は1号機(JCL-1)と2号機(JCL-2)の2種

のショック後、世界同時不況で表面化し、鋼板の厚さに応じて、両社が保有設備を相互活用するといったものだ。藤沢鋼板が厚さ6ミリまでの加工を担い、それ以上の厚さは村山社長は振り返る。そ

「業界での協業は珍しいが、受注の取り合いで価格競争に走るの望ましくない」と村山社長は狙いを語る。協業体制は順調で、「今後この体制を推進していきたい」と意気込む。

千葉支局 043-227-4346

千葉